

研究課題: 当院における潜在性肝性脳症の実態調査

研究期間

データ収集期間 2008年1月1日～2020年12月31日

データ分析期間 2018年7月11日～2025年12月31日

研究機関

地方独立行政法人 市立吹田市民病院 消化器内科

目的

門脈大循環短絡に起因する潜在性肝性脳症は末期肝硬変の終末像としての代謝障害でないことから、認知症や脳血管性病変として扱われる症例もあり¹⁾²⁾、日常臨床においては、見過ごされている可能性があります。これらの潜在性肝性脳症は、適切な治療により改善し得ることから、その早期発見は、患者の予後や生活の質を左右すると考えられます。そこで、今回、当院における潜在性肝性脳症を後方視的に解析することにより、その実態を明らかにすることを目的とします。

1) Miyata K, et al. Intern Med. 2009;48(5):321-4.

2) Watanabe A. J Gastroenterol Hepatol. 2000;15(9):969-79.

方法

対象は、2008年1月から2020年12月までの期間に当院にて潜在性肝性脳症と診断を受けた患者様です。主要評価項目は、治療前後での、治療前後での、血中アンモニア濃度の変化を、副次的評価項目としては、治療前後での、肝性脳症昏睡度（犬山シンポジウム昏睡度分類）、羽ばたき振戦、精神神経機能（Number connection test-A, B）の変化を検討します。

意義

当院において、認知症症例における潜在性肝性脳症の実態

個人情報の保護

本研究では患者様のカルテなどから病歴および血液検査結果に関するデータ収集を行うため、研究対象者のプライバシー保護のため研究の意義や目的、方法、匿名化の確保を行い、研究結果をインターネットのホームページ上に公表されます。研究のために知りえた個人情報は院外に持ち出さず、記録物と合わせて施錠可能な場所に厳重に保管・保存します。データは個人情報が特定できないようにします。また、本研究でのみ使用し研究終了後5年間保存しその後個人情報に留意し破棄します。研究結果は学会に発表することもあります。その際も個人情報が特定できないように対処します。当院臨床研究審査委員会の承認を得ます。ご自身のデータを研究に使用してほしいとお考えの場合には、下記までご連絡ください。

問い合わせ等の連絡先

地方独立行政法人 市立吹田市民病院 消化器内科 吉田雄一

住所: 564-8567 吹田市岸部新町5番7号 電話番号: 06-6387-3311